

人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進				【基本方針2】地域の特色を生かし価値を高める農業の推進	【基本方針3】活力ある地域づくりを担う地域コミュニティの推進		
	7_羽黒山スギ並木保全計画策定事業	8_史跡松ヶ岡青空マルシェ支援事業	9_太陽に輝くひまわり畑創出支援事業	10_月山高原「黄金色の麦畑」創出事業	11_広瀬さ行ってみがプロジェクト支援事業	12_羽黒地域おしごとみつけた事業	13_羽黒地域ふらっといっぽ事業
事業期間	R5～7（投資計3,940千円）	R6～（投資計1,200千円）	R7新設（投資計966千円）	R6～（投資計1,397千円）	R7～（投資計290千円）	R6～（投資計246千円）	R6～（投資計292千円）
R7までの取組状況	❖ <u>羽黒山杉並木継承のための持続可能な保全活動の促進</u> ・協議会の開催（4回） ・啓発動画の作成、配信 ・シンポジウムの開催 （市・出羽三山魅力発信協議会と共催） ・将来ビジョン、アクションプランの策定	❖ <u>松ヶ岡が主体的に行う事業の支援</u> ❖ <u>農観連携による産直運営等の検討</u> ・各イベント開催時に同時開催で青空マルシェを開催する ・4/12、13桜まつり同時開催 来場者6,000人。 ・8/3桃市（青空マルシェ開催） 来場者2,200人。 ・9/27、28クラフトフェス同時開催で秋の収穫祭マルシェ開催 来場者8,500人。	❖ <u>月山高原エリア活性化事業実行委員会</u> が主体的に行う事業の支援 ❖ <u>異なる地域の課題解決による「ひまわり畑」の再生と誘客</u> ・白鷹町との連携による「ブラックバス魚粉肥料」の活用による満開のひまわり畑創出。 ・鶴岡高専学生の協力による写真撮影スポット（ひまわりトンネル）の作成。 ・ひまわり畑フォトコンテストの開催。 7/27～9/15、応募総数100件以上、審査対象88点。金賞、銀賞、銅賞を選出。	❖ <u>月山高原エリアの認知度向上</u> ❖ <u>月山高原エリア畑作地における輪作体系の確立</u> ・小麦製品のパッケージシール作成 ・市内及び首都圏での販売推進活動 ・イベント実施及び販促用のサンプル作成	❖ <u>広瀬地区の若者による地域の魅力発信事業への支援</u> ・地域内での取材、情報収集 ・H P、Instagram開設 ・デジタル普及のための講習会	❖ <u>羽黒愛を育む体験・交流等学びの機会の創出</u> ・事業所訪問会 8/2、8/5 参加：小学4,5,6年生 10名 受入事業所：8事業所 ・おしごとマップ作成会 11/30 ・おしごとマップ地域内配布 2/25 全戸配布依頼	❖ <u>「地域の福祉関係機関の連携による共助の仕組みづくりの推進」</u> ・7/29：「特別養護老人ホームおおやま」での奉仕活動と昼食交流会、つるおかエコファイア見学 ・10/29：保育園の遊具作成と玉川寺見学、昼食交流会 ・2/26：春花プランターの施設配布と昼食交流会
事業評価	・3年間の協議や調査研究等を基に、将来ビジョン及びアクションプラン骨子を策定、ビジョンを引き継ぐ後継団体として「一般財団法人うけたもう羽黒財団」がR8.4設立している。 ・シンポジウムの開催や啓発動画の制作、配信により、地域外にも羽黒山スギ並木の現状や保全の必要性等について発信し、理解促進を促した。	・松ヶ岡開墾場での各種イベントと同時開催のマルシェの認知度は向上し来場者も増えている。 ・マルシェ本来の目的である、農産物や加工品の出店者が少なく、R9年度完成の貯桑土蔵を活用したマルシェの開催に向け出店者確保が大きな課題である。	・満開の「ひまわり畑」が創出されることで、夏の観光地として月山高原エリアが周遊地の一つとして認知され、羽黒地域内での消費活動促進に繋がっている。 ・異なる地域の連携、学校の協力などによるひまわり畑の整備が進み、フォトコンテストの開催や、話題性の発信により月山高原の魅力創出に寄与している。	・小麦の生産数量は令和56年度の76tから78 tへ増加し、また小麦作付面積は 35.39ha（令和6年度）から36.09haへ拡大しており順調に推移している。 ・小麦「ゆきちから」を「月山の粉雪」として産地ブランド化する活動を行い、その活動が評価され新麦コレクションに了承されるなど概ね目的が達成されている。	・伝統や昔からの言い伝え、祭りなど地元住民だけが知っている慣習等の取材を通して、地域を知る機会となった。 ・R7はH P開設等に重点をおいたことから、取材件数が少なくなった。	・子供たちが、地元羽黒地域の事業者から学ぶとともに将来への期待の言葉をかけていただき、地域、職業への理解、関心を深めた。 ・参加者数の拡大、小学校との連携が課題。	・参加者 1回目：3名 2回目：3名 3回目：3名 ・事業に参加した要支援者からは概ね好評であり、社会参加への意欲向上が見られた。 ・参加者数の拡大が課題である。
R8取組状況		・各イベント開催時に同時開催で青空マルシェを開催する。（R8は4回の開催を計画） ・4/11、12桜まつり同時開催 来場者8,700人。 ・8/2青空マルシェ（桃即売会）開催 来場者1,000人。 熱中症対策で演舞など中止による規模縮小で来場者減。 ・10/25秋の収穫祭マルシェ開催予定。 ・1月下旬雪まつり同時開催でのマルシェ開催予定。	・白鷹町との連携による「ブラックバス魚粉肥料」の活用による満開のひまわり畑創出。 ・鶴岡高専学生の協力による写真撮影スポット（ひまわりトンネル）の設置を継続。 ・SNS活用による「ひまわり畑フォトコンテスト」の開催。7/26～9/13 ・観光地として必須のWi-Fi環境を整備しタイムリーな月山高原の魅力発信とフォトコンテストの参加者増を目指す。	・小麦製品のパッケージシール作成 ・県内及び東北・首都圏での販売促進活動 ・イベント実施及び販促用のサンプル作成 8月16日 月山の粉雪 1dayカフェ 実施 県内外のベーカリーが月山の粉雪で作ったパンの販売イベントを開催した。（来客数800人）	・H P、Instagramの更新 ・地域内での取材、情報収集 ・デジタルマップ作成 ・デジタル普及のための講習会	・事業所訪問会 8月17日 対象：小学生 5名 事業所：4事業所 ・事業所マップ作成 12月 予定 ・3カ年分をまとめたポスター作製 12月予定	・1回目 5/22実施 「特別養護老人ホームかみじ荘」での奉仕活動と松ヶ岡での陶芸教室、昼食交流会実施。 ・2回目 10/21（予定） 保育園の遊具作成とピザ作り体験、昼食交流会実施予定。
R8予算額（千円）	0	600	884	600	300	265	300
事業写真	<div>シンポジウム開催</div> 	<div>桜まつり青空マルシェ</div> 	<div>月山高原ひまわり畑</div> 	<div>月山を背景とする小麦畑</div> 	<div>デジタル講習会</div> 	<div>事業所訪問</div> 	<div>特老での車椅子清掃</div> 